

おわりに

北海道の主要産業であったニシン漁は昭和32年(1957)

を最後に姿を消しました。

そして、長い歳月が流れ、ニシン漁に関わった人たちも亡くなったり、高齢化し、ニシン漁を語れる人もほとんどいなくなってしまうました。

また、あれだけニシン漁場が乱立していた日本海の沿岸には、その面影を偲ぶものさえ見つけることができなくなっています。

こんな中で、佐賀家漁場には、漁場の景観、漁撈用具、文書類が残されており、当時のニシン漁の姿を雄弁に物語ってくれます。

せかい ゆいいつのこ りょう すがた
世界に唯一残されたニシン漁の姿を守り続けるとと
もに、後世の人たちに伝えていくことが、留萌市民の責任
です。

さい われわれ のこ
このような文化財を我々に残してくれた佐賀家の人々
かんしゃ りょう とみ きず
に感謝し、留萌がニシン漁による富によって築かれたこ
とを忘れないことが、留萌人としての誇りを守ることに
なるでしょう。

ぎよば
佐賀家漁場は
みんなで守るMO~!

